

会議録(要旨)

1 会議名 令和5年度第5回北九州市障害者施策推進協議会

2 会議種別 附属機関

3 議題

- (1) 市民意見提出手続(パブリックコメント)の結果について
- (2) 北九州市障害者支援計画(素案)の修正について

4 開催日時 令和6年1月31日(水)
18時30分～19時40分

5 開催場所 市役所本庁舎 3階 大集会室
(北九州市小倉北区城内1番1号)

6 出席者氏名

【委員】(50音順)

池田委員、伊野委員、榎委員、落野委員、小野委員、小橋委員、
柴田委員、白川委員、高橋委員、田中委員、鳥越委員、中村委員(会長)、
民田委員、森委員、森川委員、山田(貴広)委員
(計16名)

【事務局】

保健福祉局長、障害福祉部長、障害福祉企画課長、指定指導担当課長、
精神保健・地域移行推進課長 等

7 会議経過(発言内容)

議題(1)

市民意見提出手続(パブリックコメント)の結果について

- (資料1-1 意見No.7) 人権教育で気になるのは、「チクる」ことが悪いという風潮。これを改善する必要があるというふうに考えている。要は「チクられる」ような人権侵害をするのが悪いという認識が当たり前にならないといけないと思う。

(事務局)

人権学習については、学校での学習以外でも様々な取組を行っている。今いただいたご意見を踏まえて今後の施策に活かして参りたい。

- (資料1-1 意見No.30) 市の考え方に「文化・芸術」と記載されているが、No.3では「文化・芸術、芸術文化」という表現を「文化芸術」に統一するというのであったので、統一したほうがいいのではないか。

(事務局)

ご指摘のとおり、最終案はすべて文化芸術に統一する。

議題(2)

北九州市障害者支援計画(素案)の修正について

- (資料2 意見No.3) 移動投票所については、現時点で実施は難しいとのことだが、「障害のある有権者に対する投票環境について、他自治体の向上策なども研究しながら、投票機会の確保に努めてまいります」と市の考え方あるように、引き続き継続的に検討して行ってほしい。
- (資料2 意見No.16) 就労定着支援の対象者は、就労支援移行支援サービスサービスを利用した後、通常の事業所に新たに雇用された障害のある人で、就労を継続している期間が6月を経過した障害のある人であるため、他のサービスを比較して利用者が少なくなるとあるが、利用期間はどうなっているのか。

(事務局)

就労定着支援は一般就労して6ヶ月を経過した後、その事業所、企業等で就労定着するためにサポートするという仕組みとなっている。利用期間は6か月経過後から3年までの間利用できる。

- (資料2 番号8) グループホームのことに触れてあるが、グループホームでは職員が不足しているところがあると思う。職員数を増やすといったことができないか。

(事務局)

5-(4)-1の「グループホーム等に対する支援及び整備を行う」というところでグループホームに対する支援を行っていくという整理をしている。

その他(全体を通しての意見)

- 福祉の人材は不足しているので、市の方でも今後対策をとってほしい。
- 医療的ケア児や強度行動障害のある方は預け先が見つからないという話をよく耳にする。預

けて外出することが難しいということ知ってほしい。

- 以前はショートステイを利用して会議に出席したりすることができたが、今は難しい。人材不足の問題はあるが、サービスの質は落としてほしくない。うまく打開して行ってほしい。
- 2040年に向けて、人材がどうしても足りないという事態に直面するという事に今から備えていかなければならない。無駄とムラを省き、人材が少なくても質の良い支援を受けられるような社会を実現できるよう知恵を出し合っていきたい。

(事務局)

人材不足の問題は社会的な問題としてマスコミ等でも取り上げられている。特に医ケア児や強度行動障害の方の受入れ先がなくて困っているという声は皆さんからかなりお聞きしている。そうした意見を踏まえながら、今後取組を進めて参りたい。

- 1月1日に発生した能登半島沖地震では、障害のある人が安全に避難できる場所を確保するのは非常に難しいという話を実際に現地に行った人から聞いた。万が一の災害に備えて、避難訓練等を障害のある方をクローズアップして取り組んでもらいたい。

(事務局)

災害時の避難についてはマスコミ等でも取り上げられているとおり、障害のある方が避難所に居づらかったり、こういった支援が欲しいという声をあげられないといった様々な課題があるということを確認している。

今後、災害の取組を進めるにあたり、こういったことができるか関係部局と協議して参りたい。

- 災害時にどうするかということは団体の中でも話したことがあるが、結論はでない。我が家にいたほうがずっと楽、それが一番いいと思っている人が多いと思う。
- 避難訓練はしているが、いざ災害の時に、自分が障害があるからといって避難所で冷たい目で見られるのではないかという予感があって、怖いなという思いがある。
- こうした意見があることをくみ取ってもらいたい。

- 人材不足に関しては、人材育成が課題だと思う。研修があっても受ける時間がない現状への対応や、学んだものが支援に生かしていくことができたらいいと思っている。

また、当事者活動のように当事者が自分たちで力をつけていく機会がたくさんあるといいと思う。

(事務局)

日本全体の労働人口が減り福祉人材も減っていくため、いかに質を高めるかという課題も今後浮き彫りになってくると思うので、市として考えていきたい。

また、当事者の方々の力をつけていくというところで、いろいろなことに挑戦できるような環境の整備、そうした取組等も含め引き続き考えてまいりたい。

次回開催について

(事務局)

次回議題は現行計画の進捗に関する報告となっている。今年度は計画策定のためこれまでに5回の会議を開催しており、委員の皆様への負担軽減のため書面報告という形をとらせていただきたい。